蘇

故郷の一日も早い 復旧・復興を

南阿蘇村議会議長
荒牧（あらまき）俊一（しゅんいち）

昨年は、4月16日の大地震の被害により、村民の暮らしが一変した年となりました。今も多くの村民が仮設住宅や他市町村にお世話になり、不自由な生活を強いられていますが、本年は被害地区のインフラ整備を進め、村民が生活再建の歩みを創め、一日も早く帰還できるよう希望のもてる年となることを心から念願するものです。

尊い人命を亡くした九州北部豪雨から4年。「天災は忘れたころにやってくる」と言われます。今回の大地震を克服し、一層強固な生活・村の基盤整備、新たな発想での防災体制の充実強化を図り、次代に繋ぐ安心・安全の確保に努めることこそが、生かされた私たちの最大の使命だと考えます。

前述のように発災以降、多くの村民がかつてない苦難に直面していますが、そのような中、避難・仮設住宅・寄宿舎生活、遠距離通学による不自由な環境での学校生活を余儀なくされても、勉強や部活動で頑張っている児童・生徒・学生の姿には元気づけられます。夕方、学校を訪れると元気な声がこだましています。その努力に拍手を送りたいと思います。新生「南阿蘇中」の文化・スポーツ面での活躍ぶり、そして東海大農学部生の復興への熱い支援には、私たちに感動と勇気、たくさんの希望を与えてくれています。ある日の新聞に「元気さが復興の目安」と載っていました。正にそのとおりだと思います。

我々大人たちは、この若者たちのどんな困難にも立ち向かう姿を見たときに、後ろを向くことなどできません。何事も恐れずに立ち向かうべきです。「蘇れ故郷、心ひとつに、世界に誇るカルデラ・景観の村、南阿蘇」の再興を一日でも早く実現できるよう、村議会は一丸となり、全力を傾注してまいる所存でございます。

結びに、寒さが一段と厳しくなりますが、くれぐれも健康に留意され、皆さま方のご健康とご多幸を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。